

復習問題

ざっくりと

1. 正則表現の同値  $(X+Y)^* \equiv (X^*Y)^*X^*$  が成り立つことを説明せよ。

補題 言語  $L, L', L''$  について次が成り立つ。

- $L \subseteq L'$  ならば
  - $L \cdot L'' \subseteq L' \cdot L''$ .
  - $L'' \cdot L \subseteq L'' \cdot L'$ .
  - $L^* \subseteq L'^*$ .
- $(L^*)^* = L^*$
- $L^* \cdot L \subseteq L^*$
- $L^* \cdot L^* = L^*$

定理 2.6 より  $L((X+Y)^*) = L((X^*Y)^*X^*)$  を示せばよい。  $L_1 = L(X), L_2 = L(Y)$  とおく。

(i)  $L((X+Y)^*) \subseteq L((X^*Y)^*X^*)$

$w \in L((X+Y)^*)$  とすると、 $L((X+Y)^*) = (L_1 \cup L_2)^*$  より、

$w = w_1 w_2 \dots w_n$  とおいて、 $w_i \in L_1 \cup L_2$  ( $1 \leq i \leq n$ ) とある。

① すべて  $i$  について、 $w_i \in L_1$  のとき、 $w \in L_1^* = L(X^*) = L(\epsilon \cdot X^*) \subseteq L((X^*Y)^*X^*)$ 。

② ある  $i$  が存在して、 $w_i \in L_2$  のとき、 $w_i \in L_2$  とする  $i$  を小さい方から

$1 \leq i_1 < i_2 < \dots < i_m \leq n$  ( $m > 0$ ) とおくと、

$$w = \underbrace{w_1 \dots w_{i_1-1}}_{L_1^*} \underbrace{w_{i_1}}_{L_2} \underbrace{w_{i_1+1} \dots w_{i_2-1}}_{L_1^*} \underbrace{w_{i_2}}_{L_2} \dots \underbrace{w_{i_m}}_{L_2} \underbrace{w_{i_m+1} \dots w_n}_{L_1^*}$$

とあるので  $w \in (L_1^* \cdot L_2)^m \cdot L_1^* \subseteq (L_1^* \cdot L_2)^* \cdot L_1^* = L((X^*Y)^*X^*)$ 。

(ii)  $L((X^*Y)^*X^*) \subseteq L((X+Y)^*)$

$$\begin{aligned} & L((X^*Y)^*X^*) \\ &= (L_1^* \cdot L_2)^* \cdot L_1^* \\ &\subseteq (L_1 \cup L_2)^* \cdot (L_1 \cup L_2)^* \cdot (L_1 \cup L_2)^* \\ &\subseteq ((L_1 \cup L_2)^*)^* \cdot (L_1 \cup L_2)^* \\ &= (L_1 \cup L_2)^* \cdot (L_1 \cup L_2)^* \\ &= (L_1 \cup L_2)^* \\ &= L((X+Y)^*) \end{aligned}$$

注 ちゃんとざっくり  
 「 $\gamma$  の文字を区切って  
 とした」  
 「 $\epsilon$  を入れてもよい」

//

予習問題

2. 図 2.10 の  $\epsilon$ -NFA に対して, フォル行列  $\Delta^{012}$  を与えよ。

フォル行列は NFA に対して定義されているので, まずは  $\epsilon$ -NFA を NFA に変換する。

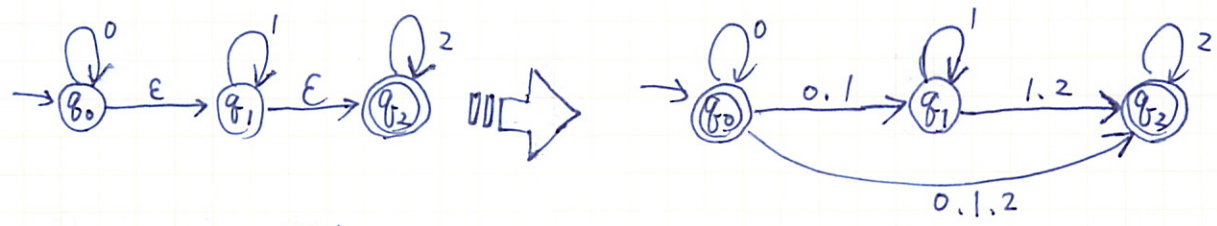


図 2.10 の  $\epsilon$ -NFA

NFA

$$\Delta^0 = \begin{matrix} & q_0 & q_1 & q_2 \\ \begin{matrix} q_0 \\ q_1 \\ q_2 \end{matrix} & \begin{pmatrix} 1 & 1 & 1 \\ 0 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 0 \end{pmatrix} \end{matrix} \quad \Delta^1 = \begin{pmatrix} 0 & 1 & 1 \\ 0 & 1 & 1 \\ 0 & 0 & 0 \end{pmatrix} \quad \Delta^2 = \begin{pmatrix} 0 & 0 & 1 \\ 0 & 0 & 1 \\ 0 & 0 & 1 \end{pmatrix}$$

$$\Delta^{012} = \begin{pmatrix} 1 & 1 & 1 \\ 0 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 0 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} 0 & 1 & 1 \\ 0 & 1 & 1 \\ 0 & 0 & 0 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} 0 & 0 & 1 \\ 0 & 0 & 1 \\ 0 & 0 & 1 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 0 & 0 & 1 \\ 0 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 0 \end{pmatrix} //$$

(また, DFA は明らかに NFA の特別な場合であるから, 図 2.11 の DFA から, フォル行列を求めてもよい。この場合, 状態数が 4 となるため, フォル行列も  $4 \times 4$  行列となる)

3. 定理 2.14 の証明において, 構成される  $M'$  が有限オートマトンであることを確かめよ。

DFA,  $M = (Q, \Sigma, \delta, q_0, F)$  に対して, DFA  $M' = (Q', \Sigma, \delta', q'_0, F')$  は次のとおり。

$$\left[ \begin{array}{l} - Q' = \{ (p, A) \mid p \in Q, A \in M(Q) \} \quad - \delta'((p, A), a) = (\delta(p, a), A\Delta) \\ - q'_0 = (q_0, I). \quad (I: \text{単位行列}) \quad \left( \Delta = \sum_{k \in \Sigma} \Delta^k \right) \\ - F' = \{ (p, A) \mid \exists p, A I_F^t = 1 \}. \end{array} \right]$$

$q'_0 \in Q', F' \subseteq Q'$  は明らかである。

$Q'$  が有限であることは,  $|Q|$  が有限かつ  $|M(Q)| = 2^{|Q|^2}$  より。

$|Q'| = |Q \times M(Q)| = |Q| \cdot 2^{|Q|^2}$  であることから従う。

状態  $(p, A)$ , 記号  $a$  に対して,  $\delta$  が関数であることから  $\delta(p, a)$  は一意に定まる。

また,  $\Delta$  は DFA,  $M$  に対して一意に定まるため,  $A\Delta$  もまた一意に定まる。

従って,  $\delta'$  は関数である。以上のことから,  $M'$  は確かに (決定性)有限オートマトンである。